



部落あげて、お年寄りを祝福

南陣山で恒例の『敬老会』

恒例となった南陣山部落の『敬老会』が、今年も快晴の二月十一日公民館で開かれ、出席した明治生まれのお年寄りが三十三人（女性二十四人、男性九人）が部落の人たちから祝福をうけました。

この敬老会の歴史は古く、昭和三年に写された、安政二年（一八五五年）に生まれ七十三歳のおばあさんの記念写真が残っており、それ以後ずっと（残念ながら太平洋戦争時に二、三回休みましたが）続けて行われていました。

当日は、婦人部の人たちが約四十人が朝から「ごちそう」づくり。式がはじまるとお年寄りたちの後に座って、いかにも「暖かく見守っている」感じがします。また、お年寄りたちも数年前まで自分たちがお祝いでいたためか、あたりまえといった顔つき（？）で豁然と座り、なごやかなふんい気ななかで会が進められました。

稲生地区で

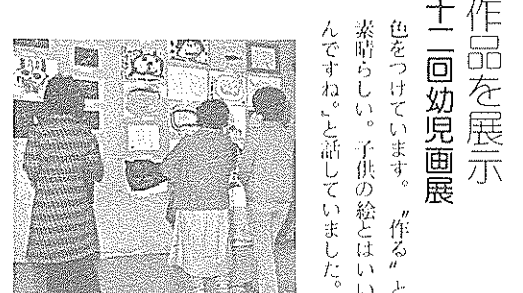
駅伝とタイムマラソン

地区民が健康で、明るい社会と体力づくりを——と、昭和五十二年に発足した稲生地区体育会。昨年の、夕刻ソフトボール、バレーボール大会、運動会に続いて、今年も二月十一日に『部落訪問駅伝大会』と『タイムマラソン』が行われました。

また、自分の予想タイムでゴールを目指す『タイムマラソン』には、四歳の坊やから八十歳のお年寄りまで五十九人が参加、二、三のコースに分かれ、『予想タイム』へちよう戦。四歳の坊やもみごと入賞し、応援の人たちから盛んな拍手が送られました。



結果は次のとおりです。
■駅伝競走
①立石 32分19秒 ②小久保 32分54秒 ③中谷 33分29秒
■タイムマラソン
①小原次夫 10分32秒（2秒）
②西川富美 9分53秒（7秒）
③三川悦子 12分10秒（10秒）
※（のなかには予想タイムとの差）



各保育所からの作品を展示 第十一回幼児画展

「見て楽しくなる幼児画展」が、今年も二月十四日から十七日まで後免町公民館で開かれました。この幼児画展は四十五年から保育会主催で開かれ、今年で十二回目。市内十保育所の二歳から五歳までの幼児の作品約二百点が展示されました。応募作品は約千点、国府小学校の田島博巳教頭の審査によるもので「年々レベルがアップしている」とか、訪れた主婦は、「二歳の子供でも形をとらえ、色をつけています。『作る』とは素晴らしい。子供の絵とはいもんです」と話していました。

少年非行防止作文

香長中から五人が入選

少年非行防止の一環として、高知県防犯協会と県警察本部が県下の中学生を対象に募集していた『非行防止作文』の入選者がこのほど決まりました。

入選者は、香長中学校三年 岡田みどり、三年 杉本由香、三年 浜田幸世、一年 杉村道代、一年 武市多世、で十名の入選者中、五名までを香長中学校が占めています。

市では、市有財産を次の要領により売却します。
■売却物件
○南国市大崎字山崎甲 一四九一・一三二
宅地 五〇・二六平方尺
（地上物件・木造かわらぶき平屋建て四二・一平方尺を含む）
■売却方法
昭和54年3月27日（火）午前10時

市有財産の競売について

一般競争入札
入札保証金
入札価格の五割以上
入札参加者の資格
禁治産者、準禁治産者および破産者で復権を得ない者を除くものとし、無資格者の行った入札は無効とする。

市役所第一会議室へ集合し行方。
入札会
昭和54年3月29日（木）午前10時
市役所第二会議室で行う。
その他、くわしいことについては管理課（内線434）へおたずねください。

非行について



香長中学校三年 岡田みどり

「非行」。最近よく耳にする。学校でも先生方がしきりに連発する。そのせいか、この言葉は、私たちの身近に存在するように思われる。いままでは、ピンとこなかった言葉なのに……。

このあいだ、私達にも非行問題が「タバコを吸った」という形でクローズアップされた。人ごとじゃないんだという思いで胸がキュッとなるとともに、頭を大きな石で思いきりなぐられた感じがした。

友人間関係などの重荷をかえて、自分一人では支えきれなかった人たちが、彼らはひきようだ。苦しいことや、つらいことがあれば、すぐ、今の現実から目をそらして、楽な方へと逃げだして

しまつ、何の解決にもならないのに……。私だって、今まで何度かつらい場面にあつた。苦しくて苦しくて逃げだしたいと思つた。しかし、私は彼らとちがつてにげだせなかつた。「今」を考え「今」くずれてしまつたら将来どうなるんだらう」という不安が脳裏いっぱいひろがっていきのた、これからも何度となく「にげだしたい」と思つたらう。だが、じつと自分の将来を大切に考えていれば、今の苦しさはすばらしい経験に変わってくると思う。

それでは、すでに落ちこんでしまった人たちはどうなるのだらうか、今の世の中は、彼らを救いだすどころか、世の中のはみだし者のようにあつかひ、社会のすみっこにおききりにしているように思える。学校も、環境も、人の目も、今の社会が、彼らをより非行へと進ませていることを、大人は知つてゐるのだらうか、早く気づいて「不良」と呼ばれている彼らに暖かい手をさしのべてほしい。

